**平成29年度　社会福祉法人みなみ**

**江戸川ケアセンター　通所介護事業計画**

管理者兼生活相談員：森川

**＜事業目的＞**

ご利用者一人一人の意思及び人格を尊重し、自立支援の観点から利用者の立場に合わせた適正な通所介護事業（介護予防・日常生活支援総合事業）を実施し、ご利用者の在宅生活を支援する事に努めます。

**＜事業方針＞**

予防介護・要介護状態となった場合においても、そのご利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、必要な日常生活上の援助や機能訓練を行うことにより、ご利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びにご利用者のご家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る。実施にあたっては、ご利用者の要介護状態の軽減若しくは悪化の防止又は、要介護状態となることの予防に資するよう、その目標を設定し計画的に行うものとする。

1. **目標数値**

　H28,4～認知症予防に特化したシナプソロジーを組み合わせた“デュナプソロジー”として、地域初となる通常規模の認知症予防特化型デイサービスとして新プログラムを開始した。

今年度は広報活動を強化していき、デイサービスの看板として地域に発信する事で、予防介護者・要介護者を統括的に支援できるように柔軟に受け入れを対応していき目標稼働率80％を目指します。また、平均登録者数を28～30名まで受け入れ1年間での平均利用人数を25名以上で維持する様に取り組む。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | 利用数 | | 稼働率 | 月 | 利用数 | | 稼働率 |
| 4月 | 525人 | | 70％ | 10月 | 600人 | | 77% |
| 5月 | 575人 | | 71％ | 11月 | 625人 | | 80% |
| 6月 | 550人 | | 73％ | 12月 | 625人 | | 80% |
| 7月 | 562人 | | 75％ | 1月 | 645人 | | 82% |
| 8月 | 607人 | | 75% | 2月 | 600人 | | 83% |
| 9月 | 592人 | | 76% | 3月 | 690人 | | 85% |
|  | | **合計** | | 7,664人 | | **平均利用率　　77.3％** | |

1. **サービス内容**

　個別ケアと自立支援を目的として昨年に引き続き、「選択プログラム」を実践してく事で

自己選択⇒自己決定⇒自己遂行までを支援し、ご利用者の意欲の増進や自立支援に向けた活動を実践する。また、周辺地域初の認知症予防プログラムを取り入れた事業所としての認知を図る。

**＜認知症予防プログラムの強化＞**

平成28年4月～認知症予防プログラムとして“シナプソロジー”のサービス提供を開始した。五感を刺激する事で脳を意図的に混乱させ、従来の運動は行わずに認知機能に焦点を当てて、近隣地域初の取り組みを行った。ご利用者様からは“以前よりも難しいけど、楽しくできる”といった意見が多く挙がり、過去3年間のデュアルタスク運動を軸とした新プログラムに繋がった事でサービス向上に繋がった。平成29年度はデュアルタスク運動+シナプソロジーを合わせた“デュナプソロジー”として新たな名称でのサービス提供を図る。また、デュナプソロジーを実施するに当たり施設内におけるエビデンス結果を収集していき、地域事業所への広報活動とケアマネジャーへの営業活動を展開していく。

このデュナプソロジーを通して認知症状の予防や進行予防に繋がり、在宅生活における課題が減少していき行動範囲の拡大を目的とする。

もう一つの目的としては通所介護における加算による収益増加を目的としている。認知症加算の算定要件として上記プログラムの実施と、平成29年2月～認知症介護実践者研修の受講者は2名が決定しているため、算定要件(別紙参照)としてはクリアできている(研修はH29,3/16に修了予定)。また、加算算定の開始については各ご利用者様の日常生活自立度の情報取得と、ご本人及び家族への説明と同意書の署名捺印が必要である。担当CMへは準備が整い次第、通所管理者より加算のお願いと算定理由を説明していく(加算開始については未定だが平成29年中旬を予定)。

**＜創作活動の充実＞**

創作活動については昨年度と同様に、作品を毎月３作品以上準備する事と作品の完成度や質の向上を図り、自分も作ってみたいといった意欲を引きだす事を目的とする。また、完成した際の達成感をご利用者様に感じて頂き、活動に対する意欲や喜びに繋げられるよう努めていく。

創作活動を通じて、手指運動になり、認知症状の進行や手指の拘縮を予防する事などの効果にも繋げられるよう支援する。

**＜毎月の行事の実践＞**

事前の計画を行い、満足して頂ける行事を実施致します。

|  |  |
| --- | --- |
|  | 平成２８年度　　通所介護年間行事 |
| ４月 | お花見(外出) |
| ５月or６月 | 食事外出イベント |
| ７月 | 納涼イベント |
| ９月 | 長寿を祝う会 |
| １１月 | 外出イベント(室内) |
| １２月 | 年忘れ会 (鍋を囲む会) |
| ２月 | 節分イベント(豆まき) |

1. **人材育成**

職員の介護技術や高齢者の医療知識の向上、認知症ケアの知識や実践がなければ信頼を得る事は不可能であり福祉業界では必要不可欠といえる。前年度までは机上で授業の様な研修内容であり、ご利用者様がどのように関係しているのか分からない状態であったため、今年度は具体的な事例と実践でのシュミレーションやグループワークを中心に研修を図る。

研修内容については下記を元に計画し、更なる知識や技術の向上を図る為にも外部への研修会へ参加して自己研磨に努めていく。また、現在は管理者や生活相談員の人数が不足しており、家族やCMからの相談連絡や調整へのレスポンスに時間的なロスが生じている。今年度では生活相談員の育成を図り、通所介護の要として地域に根差せるように育成を行う。

**＜研修予定＞**

|  |  |
| --- | --- |
| ～日程～ | ～内容～ |
| 随時行う研修 | KYT研修 |
| ４月 | 医療的側面からみた観察ポイント研修 |
| ６月 | 感染症・食中毒研修 |
| ８月 | 認知症ケア研修 |
| １０月 | 倫理・法令遵守研修 |
| １２月 | プライバシー保護研修 |
| ２月 | 身体拘束の排除研修 |

上記以外でも必要時に勉強会や外部研修などを積極的に取り組み、ご利用者の個別ニーズに対応できる、質の高い職員の育成を目指します。

**＜残業時間の軽減の取り組み＞**

　現在のデイサービス運営上では、しばし残業時間が発生している状況である。残業業務においては心身のストレス増加、業務効率の低下やプライベート時間の縮小などマイナス因子が数多く、最大のデメリットとしては人件費が多く発生してしまう事が挙げられる。

当デイサービスの利用時間算定区分は7時間～9時間未満といった保険内でも最長の利用時間(単位算定も最大)を提供しており、日々の介護記録や年間行事の計画書作成や報告書作成などを勤務時間内で終了させる事には限界がある。

昨今は介護職の離職や転職が多く介護業界全体での“売り手市場”になっている状況であり、入職後から早期退職になってしまう事にスポットを当てると、勤務時間内に見合った業務量ではなく残業ありきの勤務状況になってしまっているのではないか。勤務時間内で上記を終えるためには、計画書の書式を見直し業務時間内に作成できるように日勤帯業務の効率化を図り、勤務時間内での業務終了を公約として求人募集を行う。また、役職職員は18時までの退社を義務化して、職場とプライベート(家庭も含む)の両立が図れるよう職員の見本として日々の業務に当たる。

1. **他事業所及びご家族への情報発信**

　新プログラム“デュナプソロジー”に関しての、エビデンス取得のためにも考課者と評価者を決定した後、集計結果を元に広報誌を作成していき同時に評価が一目で把握できるように調整を行う。

その他に、昨年度と同様に“葛西地域をつなげる会”の運営と事務局として地域へ発信し、“地域として連携しやすく、認知症を患っている方や患っていない方も安心して過ごせる事業所”として地域に発信していきます。